

私の履歴書

釜本 邦茂

①

いれば」と嘆く人がいる。

76試合で75得点と日本代表で一番多く点を取った者としていわれてもらえるなら、点が取れない理由は至って単純だ。鍛錬不足、特にキックと

ド・ベッカムは逆に曲げるボールで大金持ちになった。今の日本選手でキックにこだわっているのは遠藤保仁（G大阪）らほんの一握りだ。

トである。10本打ってやっと1点という試合もあった。打った数だけ入るなら通算得点は1万に届いたかもしれない、万に一つを千に一つ、百に一

サッカー選手を辞めた時、私がユース代表から23年間で積み上げた得点数は548（694試合）だと知った。

えを常に覚えるようになってた。チームは勝っても自分が無得点だと腹は満たされず、練習は点を取ることに特化したものがほとんど。ゴールこそが私ができる最大のフオー

ヘディングの練習不足だ。「点が取れない」と嘆きながら、味方同士でぐるぐるパスを回す練習ばかりしているのを見るにつけ、チームの全体練習

ゴール前では最後は全部自分にはパスが来ると思っていたから、どんな球種、タイミングで来ても対応できる練習を

つ、十に一つと確率を高めていくのはやはり練習だ。練習もせずに試合をいくら重ねてもうまくなならない。「これだけのことをやった」というものを試合で出し、出せなかったらまた練習。スポーツとはその繰り返しだろう。

ストライカー

962年4月20日の第4回アジアユース（タイ）でビルマから奪ったもの。最後は日本リーグ選抜と戦った84年8月25日の引退試合（東京・国立競技場）。サッカーの王様ペレ（ブラジル）の1281得点には及ばないが、まあ胸を張っても許される数字だろう。

23年間、得点にかける

「サッカーゴール」本能に

・ザ・チームと信じていた。今の子供たちは遅くとも小学校の低学年にはサッカーを始める。傍らには指導者がいて、天然や人工の芝のグラウンドもある。93年にJリーグができる

の後になぜ、もっと個人練習を課さないのか不思議になる。本物の技術を身につけようとしたら練習の「質」と同時に「量」の問題は避けて通れないのだから。



最近の筆者

本田圭佑（ACミラン）ら欧州で活動する選手たちが「日本に足りないのは個の力だ」という。であるならば、半世紀も前に個の力を磨くことにまい進した男の話にも何らかの意義はあるかと思ひ、数々のゴールの記憶とともに書いてみることにした。

小学生の時から「お前の仕事は点を取る」と周りから言われ続けた。サッカーゴールの等式が本能のように刷り込まれ、ゴールへの飢

金が取れるようになった。これだけサッカーに没頭できる環境が整いながら国際舞台に立つと決定力の問題をクリアできない。いまだに「釜本が

私のこだわりは真つすぐ強いボールを蹴ることだった。そういうボールをものにしたらミスの中身を軌道から判断し修正も利くようになった。元イングリランド代表のデビッ

昨今の選手を見ていると頭に血が上る。私がFWなら「は蹴らんかい！」と靴を投げに怒るだろう。

（日本サッカー協会顧問）

そつはいつでもギリギリのせめぎ合いの中で打つシュー

（日本サッカー協会顧問）

（日本サッカー協会顧問）

（日本サッカー協会顧問）

（日本サッカー協会顧問）